

種智院大學 同窓會報

第23号

平成10年3月31日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545

種智院大学同窓会

TEL(075)681-6513 FAX(075)681-5651

◆◆ 会長挨拶 ◆◆



同窓会会員名簿刊行に寄せて

種智院大学同窓会会長 池田 瑩 輝

このほど、『種智院大学同窓会会員名簿』が刊行のはこびとなりました。編集委員の方がたをはじめ、ご協力いただきました関係各位にあつくお礼申し上げます。

さて、前回の名簿が出来上がったのが昭和63年、それから、早くも十年の歳月が過ぎてゆきました。その間には、昭和から平成へと時代も変わり、バブル景気から不透明な冬の時代へと社会は激動しました。同窓会にとりましても、学生数の臨時定員増もあり、現在では会員の数が1,300名を超えるようになりました。このようなことから、事務局には卒業生の消息についての問い合わせも間々あり、新しい名簿の必要性を感じておりましたが、事務局も少人数の体制のため、ご要望にはなかなか応えられず、皆様に迷惑をおかけし、心苦しい次第でありました。しかしながら、名簿編集委員の皆様がたのご尽力により、このように立派な名簿が完成いたしました。まことに喜ばしいことと存じます。私自身、一卒業生としてたいへん嬉しく思っています。

名簿をひもといえますと、会員の方々が社会へ貢献されていることがよくあらわれております。殊に近年は真言宗団のみならず、福祉の方面をはじめ、各方面で活躍されている様子がうかがえます。このようにご活躍中の会員の皆様、この名簿を元にして、互いに協力しあい、より社会への貢献の一助にさせていただきますれば、これに増すものはございません。

どうぞ、この名簿をお手にとり、ご活用いただければと存じます。会員皆様の今後ますますのご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

なお、これだけ尽力してやっと完成した名簿とはいえ、まだまだ不備の点もあると存じます。お気付きの方はご遠慮なく事務局にお知らせいただくか、来る6月の総会の時にもお聞かせいただければ、幸いこれに過ぎるものではありません。



◆◆◆ 名簿特集 ◆◆◆

□ 『同窓会会員名簿』 発刊

名簿編集委員 北尾 隆心 (昭和56卒)

この度、種智院大学同窓会より平成10年1月30日に新しい『種智院大学同窓会会員名簿』が発刊されました。

『同窓会名簿』は、昭和54年に『卒業生名簿』が発行されてより、ほぼ10年ごとに発行され、昭和63年には『種智院大学同窓会会員名簿』が発行されております。

そして、今年が10年目に当たり、宮城洋一郎元教授の発議で平成8年5月27日の同窓会総会において名簿編集委員会が発足し、田中実道師(昭和22卒)を委員長に頂き、川村俊朝師(昭和22卒)、江坂宗純師(昭和22卒)、蓮沼雅春師(昭和23卒)、北村太道師(昭和36卒)、嶋裕海師(昭和45卒)、小生が編集委員となりました。

編集委員会では名簿発刊に向けて会議を重ね、そして、名簿の基盤をより明確にすることにより今後は10年ごとというよりはもう少し短期間に名簿を発刊できるようにするため名簿編集・発行を株式会社関西廣濟堂に委託して名簿作成にむけて尽力してまいりました。

しかし、完成直前の平成9年12月に委員会発会当時より、我々委員を引っ張って下さっていた委員長長の田中実道師が本名簿の完成を見ずに突然ご遷化されたことは大変残念なことであります。ここに紙面を借りてご冥福をお祈り致します。

本名簿には未だ誤謬・遺漏等が存するかと思いますので、是非ともご利用を賜り、不備なる点をお教え頂くことによって完全なるものへと向けて邁進して行きたいと思っておりますので何卒宜しくお願い致します。

合 掌

◆◆◆ 同窓生異動 ◆◆◆

□ 片山宥雄大僧正、大覚寺新門跡にご就任

片山宥雄大僧正は、平成9年10月27日、大覚寺における選定宗会において、大覚寺第59世門跡・真言宗大覚寺派管長・嵯峨御流華道総裁・嵯峨美術短期大学名誉学長に就任されることが決定した。

片山門跡の入山式は、平成9年12月5日午前11時から心経前殿で執行された。参道に井上紀生元門跡をはじめ宗派・本山・華道の重役や関係者が多数待ち受けるなか、片山門跡ご到着。式は法楽の後、大覚寺を代表して廣安俊道事務長の挨拶の後、角田宗会議長、野口華務長、上平嵯峨美術短期大学学長の祝辞があり、これに対して片山門跡は、大覚寺への抱負と、いろいろ思い出を感慨深く語られた。以上で式を終了し、門跡は諸堂を巡拝、就任の挨拶を行われた。



晋山式は、平成10年2月6日午前10時より心経前殿において厳粛に執り行なわれ、真言各山山主並びに重役、宗団及び華道関係者、

檀信徒多数が参列した。式は玉久圭澄教学執事の開式の辞に始まり、奠供ののち片山門跡が敬白文を捧読。ご法楽のあと片山門跡に対し、真言宗各派総大本山会を代表して真言宗長者・麻生文雄醍醐寺座主より祝辞が述べられ、角田宗会議長、明王院総代から祝辞が送られた。これに対して廣安大覚寺事務長が謝辞を述べて式を終了した。

つづいて、会場を都ホテルに移し、午後12時30分より晋山祝賀会が盛大に催され、各方面からの600名を超える参会者が祝意を表した。

祝舞ののち、廣安大覚寺事務長が晋山式の無魔成満を報告し挨拶、続いて吉田裕信仁和寺門跡、京都市長代理の中川副市長(栢本市長代読)、大覚寺総代、上平嵯峨美術短期大学学長よりそれぞれ祝辞が述べられた。各界からの祝辞に対し、片山門跡よりお礼の挨拶が述べられ、上井寛圓前門跡の発声で乾杯をして祝宴に入った。

途中、荒巻禎一京都府知事からのメッセージや各方面からの祝電の披露、片山門跡へお孫さんから花束の贈呈がおこなわれた。終わりに野口青楓華務長が謝辞を述べ、午後2時にお開きとなった。

当日参列の主な同窓会関係者は次の各師(順不同)。麻生文雄醍醐寺座主(前学長)、吉田裕信仁和寺門跡(昭和22卒)、谷口光明西大寺長老(昭

和22卒)、川村俊朝泉涌寺長老(昭和22卒)、高吉清順善通寺法主(昭和19卒)、今井圓明種智院大学学長(昭和22卒)、井上紀生大覚寺元門跡(昭和16卒)、上井寛圓大覚寺前門跡(昭和7卒)、佐伯龍幸西大寺執事長(昭和22卒)、國定淨運清澄寺執行長(昭和20卒)、市橋真明随心院寺務長(昭和25卒)など。

なお片山宥雄大僧正の略歴は下記の通り。広島県福山市草戸町1473明王院住職、同県深安郡寒水寺兼務住職、大正8年3月20日生。昭和19年京都専門学校卒。昭和49年より宗会議員(2期)をつとめ、昭和52年宗会議長に。議長在任中の昭和56年、大覚寺紛争の際には、宗務総長及び全部長の執務を代行し紛争解決に尽力、また57年より62年まで宗務総長として紛争後の宗本再建にも尽瘁するなど多大な貢献を果たし、現在大覚寺宿老・最高顧問(華道)の要職にある。門跡は自坊の国宝本堂・五重塔はじめ伽藍を次々と修復し輪奐の美を整え、また福山市仏教会会長、家庭裁判所調停委員、NHK文化教室写経講師等を歴任するなど社会公益にも寄与している。

□ 麻生前学長の 大阿により後七日御修法厳修



平成10年戊寅歳の後七日御修法は、1月8日より14日まで東寺灌頂院道場において勸修寺流杲宝方金剛界咒立で奉修された。本学関係からは前学長麻生文雄醍醐寺座主が平成10年度真言宗長者法務法印位に補せられ、後七日御修法大阿を勤められるなど、多数出仕して厳寒の中おごそかに勤修された。

主な出仕者各師及び配役等は、下記のとおり。

主な出仕者各師及び配役等は、下記のとおり。

供僧配役

大阿	醍醐寺座主	麻生文雄(前学長)
御手替	仁和寺門跡	吉田裕信(昭和24卒)
伴僧	大覚寺門跡	片山宥雄(昭和19卒)
咒頭	中山寺長老	石堂恵教(学園元評議員)
五大尊	善通寺法主	高吉清順(昭和19卒)
舍利守	泉涌寺長老	川村俊朝(昭和22卒)
聖天供	随心院	市橋真明(昭和25卒)
伴僧	西大寺	須方智證(学籍異動)
伴僧	清澄寺	國定淨運(昭和20卒)

事務局役員

(別当) 醍醐寺執行長 仲田順和(学園理事)

(大行事) 醍醐寺教学部長 宮本真光(昭和14卒)

承仕

(醍醐寺) 田中祐考(昭和59卒)

(西大寺) 佐伯俊源(講師)

(泉涌寺) 小林孝純(平成元年卒)

随 行

(智積院) 篠崎真邦(平成9卒)

(大覚寺) 岸本隆雄(平成7卒)

(醍醐寺) 浦郷宜右(平成6卒)

渡辺慧海(平成6卒)

(西大寺) 須方審證(平成7卒)

(泉涌寺) 井上龍起(平成7卒)

(随心院) 湯浅英明(4回生)

従弟子

(醍醐寺) 神浦芳宏(4回生)

山崎義党(4回生)

□ 上井寛圓大覚寺門跡退山式



平成9年12月3日、大覚寺第58世門跡上井寛圓大僧正(昭和7卒)は、任期満了にともない、退山式を執行された。当日は寒波の襲来による夜来の雪もやみ、晴天に恵まれ午前11時より心経前殿に於いて法楽の後、廣安事務長、角田宗会議長、野口華務長の謝辞の後、

上井門跡が退任の挨拶を述べ式を終了。引き続き諸堂巡拝し、退任の挨拶を行った。なお当日は寺・派諸役、華道や嵯峨美大関係者等多数が出席した。

□ 高井隆秀智積院化主退山式

平成9年10月2日、本学名誉教授で元学部長の総本山智積院化主高井隆秀大僧正の退山式が執行された。

当日は、午前10時半より諸堂を巡拝。午後2時より金堂で、藤井龍心前化主(本学名誉教授)山内役職員、宗内重役、上村前内局局僚、智山専修学院生、智山会、壇信徒等多数が参列する中、退山奉告法要を営み、ご法楽の後、高井化主は、在任中の思い出やさまざまな機縁に恵まれた喜び

と、関係各位への謝礼、愛宗護法の思いを述べて挨拶。

金堂の前で記念撮影し、大玄関、総門前で楠寺務長、院生より花束が贈呈され、参列者に見送られながら、小雨の中を高井化主は思い出深い智積院を後にされた。

□ 醍醐寺第5次仲田内局発足

総本山醍醐寺では、昨年11月30日仲田内局の任期満了を迎えたが、12月1日付で麻生座主が仲田順和師を五度総本山醍醐寺執行長に任命。宗教法人「真言宗醍醐派規則」並びに「真言宗醍醐派宗制」により、仲田師が醍醐派宗務総長に就任した。また同日付で総本山醍醐寺執行3名（醍醐派各部長）も任命され、第5次仲田内局が発足した。そのうち本学関係者および略歴は下記の通り。任期は四年間。

○執行長・宗務総長仲田順和師（学園理事）東京都品川区南品川3-5-17、別格本山品川寺住職、昭和9年4月15日生、63歳。昭和38年大正大学大学院修了。東京宗務出張所所長、開創1100年大法要事務局次長、執行・総務部長、伝法学院院長を歴任。昭和60年12月1日より執行長・宗務総長。大僧正。

○執行・教学部長宮本真光師（昭和14卒）長崎県北高来郡小長井町井崎名753、智勝寺住職、大正7年2月11日生、79歳。昭和14年京都専門学校卒。肥前宗務所所長、同顧問、宗会議員、醍醐寺顧問を歴任。平成5年12月1日より執行・教学部長。7年4月30日より伝法学院院長を兼務。檀大僧正。

○執行・財務部長壁瀬有雅師（昭和49卒）京都市伏見区醍醐東大路町21番地、醍醐寺塔頭・別格本山理性院住職、昭和23年7月17日生、49歳。同志社大学工学部卒業後昭和47年種智院大学3年編入、49年卒業。総務部秘書課課長を経て60年12月2日より財務部会計課長。檀中僧正。

□ 密教学芸賞受賞等を祝して

鳥越正道師祝賀会

本学元副学長で、京都市中京区御池大宮西入ルの神泉苑住職鳥越正道師の大僧正昇補と、住職就任五十周年並びに密教学芸賞受賞を祝う祝賀会が平成9年11月4日、神泉苑内の平安殿で開催された。当日は、正午から、吉田裕信仁和寺門跡をはじめ、

砂原東寺事務長他寺院・役所・業者関係、および檀信徒の110余名が祝賀の会に駆けつけた。また、夕刻の6時から、今井種智院大学学長・頼富学部長等大学関係者・神泉苑幼稚園の元職員・京都組寺会住職・神泉苑狂言関係・友人・知人・親族等110名余の祝宴となった。

鳥越師は、大正11年10月20日生、75歳。京都帝国大学文学部哲学科卒、昭和22年に神泉苑住職に就任。昭和36年種智院大学学監に就任、種智院大学事務長、教授、副学長及び学校法人真言宗京都学園理事、評議員を歴任。その間、種智院大学密教学会、密教図像学会の創設、日本密教学会、日本仏教学会、日本印度学仏教学会の理事、評議員を歴任。また種智院大学密教学会の中に、インド・チベット研究会を結成し、3年間にわたり、西チベット、ラダック地方の仏教寺院や、ネパールの寺院等の調査を実施した。

自坊では、昭和20年より62年まで神泉苑幼稚園園長として幼児教育に携わり、民生児童委員等もつとめたほか、教誨師として現在も宗教教誨に尽力している。宗内では、東寺真言宗教学部長、支所長等歴任し、現在、審査委員の要職にある。

□ 御室流華道総司庁の華務長に川井宏雄師

仁和寺教学兼華道課長川井宏雄師は、京都市右京区御室大内33の総本山仁和寺内御室流華道総司庁（家元・吉田裕信門跡）の華務長に5月1日付で就任された。

川井師は、昭和12年7月20日生で、昭和35年3月種智院大学を卒業後、同年6月仁和寺宗務庁勤務、教学部課長をへて華道兼任教学課長。御室流華道学院教官を昭和40年より32年間つとめ、昨年5月副華務長に就任。全国支部にも訪れ指導育成に尽力され、御室流の普及、発展に多大な貢献をされている。

新華務長の就任祝賀会は、杉崎宜宗、梅田一甫、戸山翠隆の各副華務長が発起人となって、7月10日午後12時30分から、京都市中京区河原町の京都ホテル「翠雲の間」において開催され、来賓は上井寛圓大覚寺門跡をはじめ、華道諸流派家元、御室派寺院関係者ら270余名であった。



□ 北村コレクションにより チベット密教美術展

愛知県の岡崎市立美術館では、平成9年11月1日(土)より平成10年1月18日(日)までの期間、特別企画展「チベットの至宝—曼荼羅の心と天空の世界—」を開催した。この展示は、本学教授北村太道先生(昭和36卒)のチベット密教の尊像・法具のコレクションより、金銅仏像190体、磚仏像47点、タンカ67幅、経典9点、法具類71点、総展示数550点という大規模なものであった。

北村教授のコレクションは、その質、量ともに世界的に知られており、これまでも東寺、福岡市立美術館などでその一部が展示されてきた。今回はさらに規模を拡大し、コレクションの中から特に逸品ばかりを選び、展示されたものであった。

また、岡崎という京都からは、やや離れた土地での開催であったにもかかわらず、本学関係の教職員、学生、同窓生なども大勢見学を訪れ、全体では約1万5千人もの幅広い年齢層の人々が入場した。入場者たちは、それぞれ改めてチベットの密教に対する理解を深めるとともに、深い感動に包まれていた。

□ 泉涌寺派元管長 小松道圓大僧正遷化 泉涌寺元長老



総本山泉涌寺第151世長老・泉涌寺派元管長・大阪市東住吉区山坂1-18-30の法楽寺名誉住職小松道圓大僧正は、平成9年10月21日3時39分、法楽寺において心不全のため遷化された。世寿89歳。

密葬は10月23日、住吉結衆寺院によって営まれ、本葬儀は11月22日午後1時30分より泉涌寺長老川村俊朝大僧正導師のもとに厳修された。多数の参会者があり盛葬であった。

故道圓大和尚は、明治41年5月24日生、昭和2年11月勤修寺道場において得度。昭和8年3月京都専門学校本科を卒業され、同年10月加行成満。10年10月度牒了、11月泉涌寺道場において伝法灌頂入壇。

宗門にあっては、昭和17年法楽寺住職就任、33年泉涌寺派宗議会・末寺総代会副議長、47年同議

長、48年宗務長・寺務長、同年今熊野観音寺兼務住職(昭和52年まで)、49年から平成3年まで18年間(四期半ば)管長・長老をつとめ、その間昭和51年から平成3年まで後七日御修法定額位、56年大阿をつとめられた。52年善能寺兼務住職(平成3年まで)平成5年法楽寺名誉住職、6年泉涌寺最高顧問に就任。他に大阪地方裁判所調停委員をつとめ、また大阪仏教会長、真言宗大阪住職会会長等歴任された。また母校の振興にことのほかご尽力いただいた。同窓会では顧問をつとめていただき、最近では、種智院大学密教資料研究所編『長谷寶秀全集』刊行にも多大なご協力をたまわっていた。宗団発展、寺門興隆に尽され、その遷化が惜しまれている。

□ 田中実道大僧正遷化

大阪市福島区海老江7丁目17-18の泉涌寺派高野寺住職田中実道大僧正は、平成9年12月27日午前4時1分、急性呼吸不全のため遷化された。世寿72歳。

本葬儀は、12月29日午前11時30分より川村泉涌寺長老導師のもとに営まれ、会葬者多数で盛葬であった。故大和尚は大正14年11月2日生、昭和22年京都専門学校をご卒業、27年高野寺住職就任、57年より現在まで宗議4期目、大阪仏教法輪会代表委員長、大阪市福島区仏教会会長3期、大阪市仏教会理事・監査、同副会長3期、大阪府仏教会常任理事、大阪青少年教化協議会副委員長3期、大阪府仏教会常任理事・監査等を歴任し、昭和61年宗教法人法律施行35周年記念大阪府岸知事より感謝状、62年大阪市大島市長より社会福祉感謝状を受けられた。63年御修法定額位、平成9年大僧正昇補。また昭和59年宗祖大師千五十年御遠忌記念に鐘樓門、集会所、庫裡新築、本堂を改修され落慶法要を厳修。種智院大学同窓会にあっては、副会長、幹事、大阪支部長の要職をおつとめいただき、特に今回の平成10年版の『種智院大学同窓会会員名簿』編集に当たっては名簿編集委員長として多大なご尽力いただいていた。名簿最終校正脱稿を間近に控えたご遷化の報には、編集委員・同窓会事務局ともに残念でならなかった。

宗団発展、寺門興隆、社会福祉に尽力され、その遷化が惜しまれている。

同窓会記念講演

◆「長谷寶秀と南方熊楠」



平成9年6月20日(金)午後3時
種智院大学 3階 講堂
講 師：京都市立芸術大学学長
上山 春平 先生

長谷先生の五十回忌が2月に行われて、先生の著作全集が種智院大学の皆さんの手で企画されており、ようやく先生のご遺徳をお伝えしていく時期がやってきたかと思えます。

弘法大師の教えを突き詰めていけば、人間には清らかな気持ちがある。それに気づいてすぐ戻っていくことのできる人と、また遠のいていく人とがいます。長谷先生は生涯清らかな気持ちに自らを近づけていこうとされたかただと思います。仏教の基本は戒・定・慧といいますが、戒を非常に大切にされたのが長谷先生ではなかったかと思えます。戒を守れないという考え方が平安時代から出てきて、法然さんなどはこれに刺激を受けて他力の思想に徹せられました。さらに浄土真宗あたりになりますと、戒を守ろうという意志そのものさえ人間の奢りではないかと考えております。これに対して長谷先生は、戒を守っていくのが基本だという考えを打ち出されたかたです。真言宗ではあまり読まれないようですが、長谷先生は「遺教経」というお経を大切にされました。これはお釈迦さんがお亡くなりになるときに最後に弟子に語った教えとされています。これは短いお経で、長谷先生の師匠に当たる土宜法龍先生も大事にされています。その中に「心を一処に制せよ」ということばがあります。「これからお前たちの師匠はいなくなる。しかし、戒律を師と思っていれば、そこに私の教えがある。人間の感覚をすべて統一しているのが心であり、心に手綱を加えるのが戒で、そうすれば迷いから逃れ出ることができる」ということをいっているのです。

長谷先生は、晩年これを軸に書いておられます。ここに掛けてあるのがそれです。「制之一処、無

事不弁（之を一処に制すれば、事として弁ぜざる無し）」とあって、心の話をしているときですから、「之」というのは心です。「弁」はわかまえるとか明らかにするということです。心を一処に制すれば、いろいろな悩み、紛糾から逃れ出ることができるということです。先生はこれを77歳の喜寿の歳にお書きになったのだと思います。「七十七杜多寶秀」と書いてあります。私はこの軸を鈴木宏教さんからいただき、装丁して芸大の学長室にかけてあります。

長谷先生とのご縁は皆さんに比べると大変薄いのですが、非常に大事なときにお目にかかりました。最初にお目にかかったのは、昭和18年の6月で、先生から求聞持法を授けていただきました。ご自宅で先生は衣を着て教えてくださり、次第を写させていただきました。

私は、17・18歳のころひどく悩み、京大に入ってもまだ続いていました。そのころ弘法大師の『三教指帰』を岩波文庫で読んだのですが、難しく歯が立たないのです。けれども序文のあたりの意味はわかるのです。そこに求聞持法をやったと書いてある。求聞持法は、弘法大師が青年時代に四国から出てきたが、将来は明るくなく、苦勞されたと思う。また文学的な情熱を持っていて、非常に煩悶されたのではないのでしょうか。そんな時期に求聞持法に出会って四国で修行をされたようです。

私はそれをやってみたくと思ったのです。当時下宿していた島文次郎先生、このかたは京大の図書館長などをされた教養の広い人ですが、もしかしたら京都専門学校にも教えに来られていたかも知れません。英語のシェイクスピアなどが大変得意で歌舞伎などにも詳しく、幅広いお付き合いをされていました。長谷先生も教養がひろく、英語も堪能でしたから。長谷先生が英語が得意だったということは皆さんご存じでしょうか。土宜法龍さんが南方熊楠に長谷先生を「大変英語が得意だ」と紹介しております。

そういうことで、島先生のご紹介で伺いました。こちらはどんな方が全然知らないで、ただ下宿の先生が紹介されたということで話しをしていました。そうしたら加行を受けた者でないと教えないと言われましたが、私は「お大師さんは得度以前にされたはずだ」と屁理屈をこねました。それに負けられたわけではないのですが、「宗門にもそれほど熱心な人はいない。君がどうしてもと言う

のだったら」と譲歩してくださいました。そういうことで、私は大学へ通いながら自分流で、1日三千遍だけ虚空蔵さんの真言を繰り返しました。1年かかってともかく百万遍やってみようと大文字山の大師堂に毎朝かよいながらやりました。それが軸になって大学生活が秩序立ってきて、体が元気になっていきました。以上のようなことは、「清浄な心」(『長谷寶秀全集』第1巻所収)に書いておきました。

ところで南方熊楠は、ものすごい真言宗びいきの人でした。和歌山県の人には多いようですが、「お大師さん」というのは格別の意味を持っています。南方熊楠は大日さんの真言を誦えていたといっており、光明真言を子供のときから誦えていたようです。「ペイロシャノウ」ということは大日如来ですから、これを大日さんの真言だと思っていたようです。光明真言は浄厳というかたがいて、江戸時代に非常に普及しました。

南方熊楠は、一高に入るのですが落第しかけたのか、アメリカに行き、農林学校かどこかに入りますが、そこも卒業していない。やがてイギリスへ行きました、ロンドンの大英博物館で東洋部の仕事を担当していたのです。土宜さんは、日清戦争の前の明治26年に世界万国宗教会議がアメリカのシカゴで開かれ、その代表に選ばれて行かれ、帰りにイギリス、フランスをまわられた。そのイギリスで誰か紹介する人がいて土宜法龍と南方熊楠が出会ったのです。『南方熊楠日記』によれば、たびたび会って話しています。

やがて土宜さんはフランスへ行きます。フランスのギメ美術館は日本の仏像をすくく持っている。これは、廃仏毀釈のときに、ギメという人が日本に来て集めたのですが、その頃ですから江戸時代の神仏習合的な、垂迹神など密教系のものがいっぱい入っているわけです。それで、ギメが土宜さんに「しばらく来て、仏像を選別してくれ」と言ってきたのです。それで土宜さんは数ヵ月ギメに滞在して小さなリストを作ったようです。それが元になってだんだん大きいリストができて、昨年に分厚いギメのカタログができました。

こういう経緯がありまして、南方さんと土宜さんが知り合って、それからものすごく手紙のやりとりをするのです。戦後、『南方熊楠全集』(全10巻・平凡社)が出ましたが、南方熊楠が土宜さんに宛てた手紙は収められていますが、土宜さんが南方熊楠に送った手紙はほとんどなかった。とこ

ろが、南方熊楠の弟さんが持っておられるのを集めて『南方熊楠・土宜法龍の往復書簡』(八坂書房)として出されました。とても分厚いものです。南方さんは徹夜をして手紙を書いています。二人の手紙のやりとりは、すごく深く切り込んでいます。むちゃくちゃ悪い言葉でののしったり、「坊主は金食い虫だ」とか、ひどいことをいって、お互いに言い合いながら、ときどき本当に良いことを言っています。

最初のころの手紙に、アレクサンドリアのミュージアム、これは博物館と美術館、大図書館を兼ねたようなものですが、このようなものを日本に作り、俗向けの宗旨ではなく、真言密教などを詳しく研究させたいと言っている。土宜さんは、真言の信頼のおける相手として、一目で気に入ったようです。南方さんは、大僧正とか肩書を見せびらかす人は大嫌いで、大抵の者は馬鹿にして付き合わないのです。どこが気に入ったか判らないのですが、本当に信頼してしまいました。そして、「自分がこちら(イギリス)で見つけた宗教や哲学の本をどんどん送るから、帰ってから、高野山でもどこでも良いから大図書館をつくってくれ」と言っています。しかし、土宜さんは旅行中なので、日本で誰か本を受け取る人を教えてほしいと言ったのです。そうしたら土宜さんが返事をして、長谷先生が篤実で英語も出来るので、そこへ送ってほしい旨を言っています。

このときにモリエール・ウィリアムスの『仏教講義』を推奨しています。この本は、南方熊楠の蔵書にも入っていて、自分でかつて送ったのか、土宜さんに送ったのを取り戻したのか、別に買ったのかわかりませんが。原本はただ『Buddhism』で、それに副題がいろいろついています。これを長谷先生が翻訳し、『伝燈』に連載しています。『長谷寶秀全集』でも紹介しています。ただ、あれは論文ではなく単行本です。全部で十何章かあるうちの三章か四章です。明治27年頃に南方熊楠が土宜法龍さんに推薦したものを、7~8年後に掲載しています。

時間が参りましたので、このへんで終わりたいと思います。長谷先生の五十回忌に参列することができませんでしたので、今日のご供養のつもりでお話しさせていただきました。どうもありがとうございました。

〈種智院大学だより〉

▶平成9年度卒業式

3月14日(土)午前10時より第46回卒業証書・学位記授与式が挙行された。今年度は、117名の学生諸君が新社会人へと巣立っていった。式は、多数の教職員、保護者、関係者の見守る中、吉田先生の司会のもと、仏教学・密教学・密教文化・仏教福祉学の各コースごとにわかれて着席、主任の沖・北村・頼富・桂先生によって氏名が呼び上げられ、それぞれの代表者に対して今井明同学長より卒業証書・学位記が授与された。また、優秀な学生に対しては、学業賞、学長賞、論文賞、六大新報社賞、高野山出版社賞が頼富本宏学部長より授与された。今井明同学長の祝辞、来賓を代表して総本山仁和寺門跡・真言宗京都学園理事長吉田裕信現下より祝辞があり、来賓の紹介があった。桂先生の祝電披露のあと、在学生を代表して学生自治会長友繁二郎くんより送辞が、卒業生を代表して密教文化コース寺尾美智子さんから今井学長にお礼の言葉が述べられ、盛大のうちにつつがなく式を終えた。

式後、会場を烏丸京都ホテルに移して、学長先生、恩師を囲んでの記念撮影と、卒業生送別懇親会が和やかに催された。

◎学業賞

村松由紀(仏教学) 林 和美(密教学) 寺尾美智子(密教文化) 白水 龍(仏教福祉学)

◎学長賞

中島小乃美(仏教福祉学)

◎論文賞

村松由紀 植村真美子(以上仏教学) 清滝貴子(以上密教学) 寺尾美智子 米田雅一 榎原正道 藤宮政子 福本智江 高橋徹也 瀧谷賢治(以上密教文化) 松尾優子 永井順子 中島小乃美(以上仏教福祉学)

◎六大新報社賞

山崎浩一(仏教福祉学)

◎高野山出版社賞

高見弥生(仏教福祉学)

公開講座

密教学シリーズ 共通テーマ「こころ」

第1回 4月21日(火) 11:30~12:30

題 「金剛頂經のこころ」

講師 北村 太道 先生

一切如来の真実を拱めた經典と言われる「初会金剛頂經」のそのこころを述べて見たい。

第2回 5月21日(木) 11:30~12:30

題 「大日經のこころ—自心を知る幸せ—」

講師 山崎 泰廣 先生

喜びも苦しみも総て自心から生ずる。自心は驚く程深く広く豊かである。二十一世紀最大の課題は、自心の発掘となろう。

第3回 7月21日(火) 11:30~12:30

題 「声明のこころ」

講師 井上 亮淳 先生

音楽は世界共通のことばである。宗教に関しても同じである。仏様にささげたい。

第4回 9月21日(月) 11:30~12:30

題 「日本密教のこころ」

講師 北尾 隆心 先生

日本密教が目指しているところを明確にし、そして、われわれの“こころ”とは如何なるものかを解明する。

▶研究室紹介(密教学研究室)

本学の密教学研究室は、山崎泰廣教授と本学出身の井上亮淳教授(昭和33卒)、北村太道教授(昭和36卒)、北尾隆心専任講師(昭和56卒)の構成となっている。先生方の平成9年度の業績を挙げると以下の通りである。

○山崎泰廣教授

「大日經疏玄談」解説(「長谷賢秀全集」2)

「大藏秘記集」解説(「長谷賢秀全集」3)

「二十一世紀に生かす密教—宇宙は一つのいのち—」

(日本密教学会30周年記念シンポジウム)

○井上亮淳教授

舞楽曼荼羅供研修会(4月観音寺) 貞明忌糸竹会

(5月霞会館) 和歌披露(8月綾小路家流) 雅楽・

循馬楽・朗詠研修会（8月観音寺） 中国山東省魚山調査（博物館等）と曹植墓前光明三昧法要・曲阜師範大学音楽部（馬教授）交流・北京仏教音楽研究所（田教授）交流など（9月中国） 「明治魚山における2・3の問題について」発表（10月日本密教学会）糸竹会楽納演奏会（12月霞会館）

○北村太道教授

「ツォンカバ著『秘密道次第大論』試訳（その1）」（『普通寺教学振興会紀要』3）「『Tantrarthavataara』を中心とした金剛頂経の研究（その21）」（『密教学』34）「第2回海外密教調査研究報告 地神儀軌について」（『密教学』34）「第2回海外密教調査研究報告 外モンゴルのラマ教美術」（『密教学』34）

○北尾隆心講師

「長谷賢秀全集」第2巻「解説・十巻章玄談」（法蔵館）「興教大師覚鑿写本集成」全4巻（共著 法蔵館）「済退撰『百光遍照王義問答抄』について(1)」（『密教学』33）「日本密教の系譜・阿字観」（『中外日報』25585）「般若心経古註の解説(1)」（『ぐんしょ』36）「念珠を持つ意味」（『生きる力SHINGON』vol.10）「日本密教の系譜・密厳浄土」（『中外日報』25714）「隆徳僧正について(1)」（『密教学』34）「書評 蓮生善隆監修隨心院聖教類綜合調査編輯『仁海僧正九百五十年御遠忌記念 隨心院聖教類の研究』」（『密教学研究』29）「『阿字観用心口訣』の成立について(1)」（『仲尾俊博先生追悼論文集』）TBSラジオ『上原さくらのお姫さまラヂオ』出演「密教の修行法について」（6月26日・7月3日）

▶ 学会活動

日本密教学会 第三十一回学術大会の開催

日本密教学会（松長有慶理事長）の第31回学術大会が、来る10月30日（金）、31日（土）の両日にわたり、本学において開催される。

日本密教学会は、種智院大学密教学会のほか、智山勸学会、高野山同学会、豊山学会の四団体で運営されており、毎年順番に開催し、今年は本学が当番校になっている。

第1日目の30日 午前10時から、開会式に引き続き、真言宗各派総大本山会から贈呈される、もっとも権威がある密教学芸賞、ならびに、日本密教学会から新進の研究者に贈呈される密教学会賞の受賞式が行われ、午後より各学会の先生方による研究成果の発表、夕刻よりは懇親会が開かれ、翌31日は研究発表の予定である。

▶ (宗教部)

学園加行

平成10年第4期学園加行前期日程は、大本山大覚寺様のご協力により2月より実施されている。

加行に先立ち、行者たちは昨年11月より1月までの毎週月曜日から水曜日までの三日間、経典説誦、声明、威儀、所作などを、監督から講習を受けて加行に臨んだ。

2月12日（木）10時大覚寺表玄関に集合、宿舎清掃ののち衣体を改め、山崎宗教部長先導のもと、14時30分大覚寺に挨拶に伺った。応接室で廣安事務長、玉久教学部長、宇喜多教学課長に挨拶し、激励のお言葉や心得などをお話いただいた。

続いて寺務所の皆様への挨拶のあと、片山門跡猥下のお部屋へ伺い挨拶、猥下より温かい励ましのお言葉を賜った。

16日初夜座より十八道加行を開白し、行者たちは現在順調に行を修めている。彼らは、これまでの生活環境との変化に驚きながらも、各自一所懸命に努力し、加行に専心している。前期日程は、金剛界正行の結願までで、4月8日の予定。後期は、夏季休暇中に胎藏界・護摩の行を修める予定であるが、詳細については未定。


行者は下記の学生および卒業生（括弧内は、僧名・回生・コース）。

井上 敬司（真明・3・密教学）
木村 英智（照道・3・密教学）
文策 友和（本照・3・密教文化）
中村 禎成（禎成・3・仏教学）
神田 征宏（征宏・3・密教学）
近藤潤一郎（潤海・3・仏教福祉学）
久富 正登（本礎・研究生・密教文化）


なお、加行の監督は、下記の本学卒業生各師のご協力をいただいている。

東 龍行（平成2卒） 大塚知明（平成2卒）
広浜哲生（平成4卒） 徳田秀満（平成7卒）
石山陽圓（平成8卒） 沖田憲信（平成8卒）
高島圓隆（平成8卒） 岡野雲愷（平成10卒）
島田大観（平成10卒）





〈学生だより〉



【】 自治会活動

平成10年度自治会役員は、会長以外の三人の役員が女性という、男性が多数を占める種智院大学ではめずらしい形を取るようになりました。

種智院大学を初めて訪れたのは受験の時でした。その規模の小さいことには驚かされました。けれども、この大学だからこそ人間関係が密接になり友好も深まるのだと、今になって気付かされます。

自治会役員は会長・副会長・会計・書記の四人で構成されている、学内でもっとも小規模の組織です。しかし、その活動となると学生全体に影響を及ぼします。自治会が種智院大学を象徴しているように取ることも出来ると思います。

会長・副会長は三回生になりますが、私達が入学した頃から見ても、大学は日々変わっています。大学の移転に関してはその最たるものです。私達は新しい土地で始まる学生の生活に何を残せるのか、考えるべきだと思っています。何故ならば、変わっているのは大学側だけではないからです。学生は年代別に独自のカラーを出しています。大学までの教育が当たり前となった今、私達は大学生生活の意義を再発見しなければいけないのではないかと……そう思うのです。

自治会は学生と共に歩んでいます。学校と共に歩んでいます。弘法大師の教えは、時を超え、私達に心の糧を与えて下さるでしょう。しかし、学生がそれを発見するのは難しいことです。仏教と新興宗教が肩を並べ、沢山の宗教が混沌としている現在、学生の宗教に対しての先入観には根深いものがあるのです。しかし、日常生活のなかにも仏教の智慧が生きていることを、私達は知っています。

自治会の活動でどれだけの事ができるのかは、わかりません。けれども、同じ学生だからこそ、一緒に歩んでいけると思っています。

学生の一人一人が自分の道を見極めることが出来るよう、手助けをし、そしてともに努力していきたい。そのような姿勢で、一年間を四人の役員で歩んで行きたいと考えています。

平成10年度 自治会役員

会長	友繁 二郎	3回生	密教学
副会長	小松ゆかり	3回生	密教学
会計	叶 夕貴恵	2回生	密教文化
書記	佐々木宏美	2回生	密教文化

【】 学園祭実行委員会

学園祭は「種芸祭」と銘打ち、毎月21日に開かれている弘法市にあわせ、11月に催されます。その日までに、実行委員会は、入口を飾るアーチの製作や、校内の装飾の準備を進める美術部。当日校内を盛り上げる全イベントの企画・運営をする企画部。この小さな大学の小規模な学園祭を多数の人に知ってもらうために広報活動をし、さらには協賛を募るための営業活動をする広報部。すべての活動が円滑にすすむよう、金銭面を管理する会計。そして全てをまとめる執行部。これら全てが当日を目標としてがんばっています。

学園祭は、その大学がどのようなものかを知ってもらう、最大の機会です。どのような学生がいて、何を考えているのか、何をしたいのか、そのような学生の表現の場でもあるのが、学園祭です。

本学での学園祭の歴史は、まだ浅いものです。けれども、その歴史の基礎を築く地点に自分たちがいるのだと自覚し、任期終了まで努力していきたいと思えます。

平成10年度 学園祭役員

委員長	東田和仁	3回生	密教文化
副委員長	中西 学	3回生	密教文化
会計	別府広隆	3回生	密教文化

【】 降誕会・常楽会実行委員会

我が種智院大学における学園法要は、伝統的宗教行事として、学生を中心に永く営まれてまいりました。

平成9年度も例年にならい、古義、豊山、智山の諸先生方に声明・法式の御指導をおおぎ、三派合同という、他に類を見ない画期的な法要をとり行いました。今年度は6月15日が日曜日と重なったため、6月17日に「両大師降誕会法要」として、真言宗開祖弘法大師、並びに、中興の祖興教大師への報恩謝徳を捧げ、両大師の誕生を盛大にお祝いいたしました。

記念講演は、松長有慶先生による、「二十一世紀に生きる大師の教え」をテーマに、未来の密教観が展開され、我々にとっても未だ記憶に新しいところであります。

常楽会法要は、本来ならば2月15日ですが、大学の事情により、12月15日に繰り上げ、大恩教主釈迦牟尼如来を追慕し、遺跡講にて行いました。三時間半にも及ぶ式次第のもと、三派にわけられた遺跡講式を、潮（古義）、孤島（豊山）、倉松（智山）の先生方にお唱えいただき、それぞれ節の違いはあるものの、いずれも素晴らしいことには感動いたしました。

また、記念講演では、本学宗教部長、山崎泰廣教授による、「二十一世紀における涅槃像」が強く語られ、次世代を担う我々に対して啓示がなされました。最後になりましたが、同窓会各位様におきましては、今後とも、何卒ご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【】モンゴルチャイルドチャリティ

モンゴルでは、社会主義の崩壊から資本主義への移行がうまく進まず、インフレ・失業率とも非常に高く、経済状態が極めて悪い。このような背景と、親の失業などによる貧困から、親元を飛び出した子供たちがストリートチルドレン（浮浪児）となっているそうである。

本学教授で、密教資料研究所のモンゴル仏教文化調査団自然科学班の吉田元先生（自然科学）は、このことを知り、本学仏教福祉学研究室主任の桂泰三教授とも相談の上、現地調査のときに時間を割いて、調査に加わった長橋威知（4回生）君、斎藤達郎（2回生）君の両名とともに、チルドレンセンター（収容施設）を訪問した。

センターでは、子供たちに何か必要なものがあるか尋ねたところ、文房具や衣類が希望とのことであった。

これを受けて、長橋、斎藤、田島三君により11月21日の学園祭でモンゴル展が企画され、広くチャリティを呼びかけた。地元の京都新聞にも取り上げてもらった結果、大反響となり、100箱以上の衣類と現金が集まった。社会福祉研究会の学生が協力して12月5日に衣類を仕分けし、順次モンゴルに2回に別けて発送を完了した。

〈同窓会だより〉

【】京都専門学校同窓会 昭和24年度同窓生の集い

宝塚および有馬の地において開催

京都専門学校同窓会の昭和24年度卒業生による同窓会が、去る平成9年10月19日から一泊二日の日程で、中山寺および有馬の地において開催された。この同窓会は、場所を変えて、数年ごとに行われているもので、前回北海道で開催してからは、久々の同窓会開催であった。本年度の幹事は、吉田裕信・田中純應・山田達圓の三師であった。

今回は、本学学長の今井圓明先生（前中山寺長老）の自坊である大本山中山寺塔頭寶蔵院（宝塚市中山寺2丁目11-1）で開催された。同宝蔵院は、平成7年1月の「阪神・淡路大震災」に被災し、その後、復興工事を急いでいたが、事業は無魔成満した。その慶事にあわせて、10月19日午前10時よりの落慶法要に出仕した後、正午より宝塚ホテルで盛大に催された祝宴に、来賓として随喜の出席をした。その後、宿泊ホテルである有馬・欽山に場所を移動し、二次会を行った。二日目は、神咒寺の如意輪観音（伝弘法大師御作）を参拝し、清澄寺の鐵齋美術館を見学した。

参加者は、久しぶりの再会に時の経つのも忘れ、専門学校当時の思い出や近況を語り合った。

参加者は下記のとおり。

吉田裕信夫妻、八木龍生夫妻、小笹憲雅夫妻、神野龍幸夫妻、加藤亮匡夫妻、今井圓明夫妻、新野正憲、山田達圓、神田諦雲、宇喜多惠隆、田中純應、東田教範、佐伯龍幸。

【文中、敬称略。順位不同】

なお、今回は、平成10年10月10日仁和寺門跡吉田院下の自坊である宮島・大聖院で開催されることに決定した。

【】三学年合同同窓会

来る平成10年4月18日（土）午後6時より、昭和58・59・60年卒業の3学年合同同窓会が開かれることになった。発起人は、山本泰弘、吉田正裕、三好祥徳、田中祐考、市橋朋幸、橋本江理子、渡

邊恭章、黄丹良海の9師。多数の参加を期待している。問い合わせは、渡邊恭章師(TEL 075-561-5209)まで。会場はリーガロイヤルホテル京都2階桔梗の間で、参加費は10,000円とのこと。

【】 会員消息

【お慶び】

- 鴨下直弘様 (平成4卒)
裕子様 (旧姓水谷 平成4卒)
平成9年7月ご結婚
- 宇垣泰明様 (昭和57卒)
摩結子様 (旧姓岡本 平成9卒)
平成9年9月ご結婚

【訃報】

- 佐藤明義様 (真言宗京都大学 大正7卒)
平成9年9月9日ご遷化 108歳
愛媛県西条市福武甲1444 金剛院(御室派)
名誉住職・大僧正
- 小松道圓様 (京都専門学校 昭和8卒)
平成9年10月21日ご遷化 89歳
総本山泉涌寺第151世長老・泉涌寺派元管長・

大阪市東住吉区山坂1-18-30 法楽寺(泉涌寺派)名誉住職・大僧正・同窓会顧問(詳細別掲)

- 田中実道様 (京都専門学校 昭和22卒)
平成9年12月27日ご遷化 72歳
大阪市福島区海老江7丁目17-18 高野寺(泉涌寺派)住職・大僧正・同窓会副会長・同窓会名簿編集委員会委員長(詳細別掲)
- 養学智海様 (京都専門学校 昭和16卒)
平成10年2月13日ご遷化
広島県尾道市高須町太田 福善寺住職
- 小林純一様 (昭和63卒)
平成9年12月12日ご逝去
福井県敦賀市中央町1-4-33

会員の皆様で慶弔や身近なできごと、あるいは姓名の変更などございましたら、何なりと各支部幹事または同窓会事務局までお知らせください。

(連絡先)

京都市南区壬生通八条下ル東寺町545
〒601-8478 T e l 075-681-6513
F a x 075-681-5651
種智院大学同窓会事務局宛

〈同窓会会員名簿完成!〉

平成10年版

『種智院大学同窓会会員名簿』

— 現在好評頒布中 —

お問い合わせ、お申し込みにつきましては、同窓会事務局宛ご連絡下さい。

価格 3,500円(送料込)

〈同窓会総会案内(予定)〉

平成10年度

種智院大学同窓会総会

平成10年6月10日(水・友引)

- 午後1時30分 受付開始
- 午後2時00分 物故者追悼法要
- 午後2時10分 総会
- 午後3時00分 記念講演
- 午後4時30分 記念撮影
- 午後5時30分 懇親会

ホテル「グランヴィア京都」JR京都駅内
(上記は予定です。詳細は後日ご連絡いたします)